

各位

kawasaki-info



Vol. 167 (2025年9月発行)

発行：学校法人川崎学園

川崎医科大学総合医療センター

患者診療支援センター 地域医療連携室

「高齢化社会を迎え、からだにやさしい消化器内視鏡治療の推進」

川崎医科大学総合医療センター

内科特任部長 梅垣 英次

本年4月1日付けで内科特任部長（総合内科学2特任教授）に就任いたしました。私は1986年に大阪医科大学を卒業後、同大学第二内科学教室（消化器内科）に入局し、日々の臨床を行う傍ら一般臨床に還元できる研究を行うことをモットーに研究にも携わってきました。臨床面では、消化器疾患の診療とともに消化管全体（食道、胃、小腸、大腸）の診断と治療を積極的に行ない、特に消化管悪性腫瘍（食道がん、胃がん、大腸がん）に対しては、患者様にやさしい内視鏡治療を開発、推進することに従事しました。基礎研究では消化管粘膜傷害の発生とその修復（消化管炎症）に関する研究や *Helicobacter pylori* 感染と胃癌の関連性に関する研究を進めました。

2014年4月、神戸大学消化器内科に着任後はこれまで行ってきた活動を継続し、世界一の日本の消化器内視鏡の診断と治療手技を世界へ普及させるために、海外の内視鏡専門医の指導と育成にも関与しました。

2019年4月からはご縁あって川崎医科大学消化管内科（現、消化器内科）に着任し、これまでの自分の経験を基に患者様のQOL向上を目指して、この地区での医療の発展に全力を投じてきました。

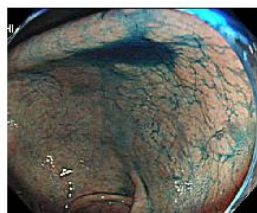
超高齢化社会を迎えて、今後益々患者様のQOLを考慮した診療が不可欠になってきます。消化管悪性腫瘍に対しては適応性の問題がありますが、まずはからだにやさしい消化器内視鏡治療のニーズが高まるものと考えます。川崎医科大学総合医療センターでは、最先端のハイビジョン対応の内視鏡、特殊光内視鏡（Narrow Band Imaging 狭帯域光法）、拡大内視鏡、超音波内視鏡を用いて、がんの早期発見および正確な範囲診断・深達度診断を行います。また消化管がんに対する治療は、内視鏡的粘膜下層剥離術（Endoscopic Submucosal Dissection）という方法で、大きな病変でも一括切除が可能となり、高い治癒成績を挙げています。もちろん全てのがんが内視鏡治療の適応となる訳ではありませんが、内視鏡検査によって転移する可能性が極めて低い早期に病変を発見できれば、患者さんはその恩恵を受けることができます。

がん患者さんはもちろんのこと、がんを疑う患者さんや適切な治療法に迷う患者さんがおられましたら、お気軽にご相談、ご紹介いただけますと幸いです。

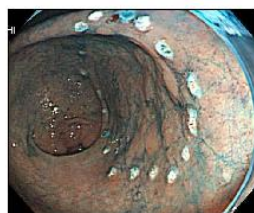
内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) の手順



① 術前診断



② マーキング



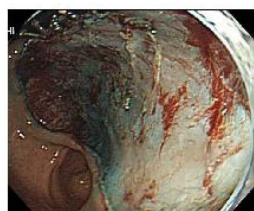
③ プレカット



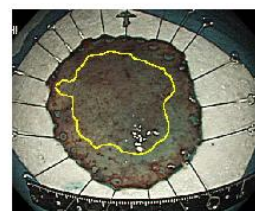
④ 周囲切開



⑤ 粘膜下層剥離



⑥ 病変切離・病理評価 (最終診断)



セミナーのご案内

別紙のとおり、急性期病院として地域住民に安心を提供できる医療連携の構築を目指し、病診連携・病病連携の充実を図ることを目的として下記を開催いたします。奮ってご参加をお願いいたします。

令和7年度 第4回 Kawasaki 連携フォーラム Webセミナー』

日時 : 令和7年10月8日(水) 19:00~20:00 (入室18:30~)

方法 : オンライン (Zoom)

テーマ : 「食道裂孔ヘルニアの診断と治療」

講師 : 川崎医科大学総合医療センター 外科部長 繁光 薫

対象 : 医師・医療従事者

参加費 : 無料 (岡山県医師会生涯教育単位 1.0 申請中)

申込方法 : 氏名・施設名・職種・医師登録番号 (医師のみ) ・住所・電話番号を記入の上、地域医療連携室にメール (renkei@hp.kawasaki-m.ac.jp) にお申し込みください。

↑
ハイフン

病院理念

- 1.医療は患者のためにある
- 2.すべての患者に対する深い人間愛を持つ
- 3.24時間いつでも診療を行う
- 4.先進的かつ高度な医療・教育・研究を行う
- 5.地域の医療福祉の向上と医療人の育成を行う

学校法人川崎学園 川崎医科大学総合医療センター
患者診療支援センター 地域医療連携室

〒700-8505 岡山市北区中山下二丁目6番1号

TEL 086-225-2133 (直通)

FAX 086-221-1101

E-mail shien@hp.kawasaki-m.ac.jp